

卒論を完成させた感想や教訓、また小林先生の指導について  
2022年度4年生

卒業論文を完成させた感想や教訓(後輩のゼミ生に話したい経験談も含みます)。(400字)	卒業論文のための小林先生の指導について
<p>自分自身で情報収集をして、問題提起から結論までを書き上げたのが初めてのことでとても良い経験になりました。情報収集をする中で自身が卒業論文のテーマにしたい事柄が見えてくると思いますが、問題提起に対してぼんやりとでも自身の結論を考えとして持ちながら作業を進めると、書くべき本論の内容も、それに必要な論文の収集もスムーズに進むと感じました。</p>	<p>最初に提出した卒業論文よりかなり多くの変更点を指示して貰いました。自身の主張を曲げずに読み手に伝わりやすい内容の取捨選択だったり、章題の変更だったりの指示が的確で勉強になりました。論文にふさわしい言葉遣いが何も分からず随分と手を尽くしていただきました。とても感謝しています。</p>
<p>卒業論文にとりかかった当初は、自分が決めたテーマについての文献を探すのに苦労しました。4年生の前期は就活が忙しく、卒業論文のために使える時間が限られるため、3年生ぐらいから自分の興味があるテーマとそれに関する文献を集めておくと思いいます。また、3年生までに卒業に必要な単位をなるべくとっておき、余裕を持ってゼミを受けられる環境を整えておくと思いいます。卒業論文は分量が多く、出来上がるまでに時間がかかりましたが、出来上がった時の達成感は大学生活の中でもトップクラスのもので、最後の大学生活を楽しみたいという気持ちもあると思いますが、根気強く頑張ってください。</p>	<p>先生からの指導を受けて感じたことは、自分の書く文章がまだまだ未熟だったということです。今まで当たり前だと思っていた文章表現でも結構違和感のあるものが多く、先生からの指導によってそれを気付くことができました。学生生活最後に、そういった所に気付いてよかったし、社会に出たときに自分の役に立つと感じます。一年間丁寧なご指導をありがとうございました。</p>
<p>感想・・・まず自分が15000字もの論文を書けるとは思っていなかったもので、正直驚きと達成感が同時に来ている感覚です。こんなに長期間、一つの課題に取り組む事は大学受験以来だったので、不安もありましたが、しっかり文献やインターネットを読み取る事に注力すると思っていたよりあっという間に文字数が増えていくものだと思います。</p> <p>教訓・・・一番悩んだのはテーマを決めるときでした。色々難しく考えすぎてしまい、一つの論文にまとめるには無理がある内容を扱おうとしてしまいスタートが遅れました。経済学というのはかなり懐が広く、様々な事柄から繋げることができる学問だと思うので、悩んだら自分が一番興味のある事という単純な思考でテーマを選んでしまった方が楽に書き始める事ができると思います。</p> <p>また、就職活動が長引くと当然スケジュールが詰まってしまい余裕がなくなってしまうので気をつけてください。</p>	<p>接続詞などの細かい部分まで訂正して頂けるので、毎回、全文しっかりと読んでいただいている事が分かって、とてもありがたいなと思いました。</p> <p>直す際も、必ずこちらの意見を言う機会を設けており、こちら側の意見に対して耳を傾けてくださったので、先生が主導で論文を進めているのではなく、ともに論文を進めているのだと感じる事ができました。</p>
<p>書く前や書いている途中では本当にやりたくない、投げ出したい気持ちしかなかったのですが、ほかのゼミ生の経過発表を聞いたり、小林先生が自分のために参考文献探しや校閲などご指導して下さったりのおかげで、自分も頑張らざるに完成させなきゃという気持ちになり、なんとか完成させることができました。完成させて思ったことは、本当に頑張らざるに良かったということです。自分が真剣に頑張った分、達成感が大きく、最後までやり切らざるに良かったと思いました。</p>	<p>今回卒論を書くにあたって、自分の経験や知識では引き出せない表現や、参考文献を紹介して下さり、とても助かりました。有難うございました。</p>